

クリスマスの自己犠牲

第24回 オペレーション・ホリデー・ホープ



あなたのお陰で子どもたちは、
どんな状況でも愛を自らの行動
に表すことを学んでいます
—ビル・ウィルソン

デビッドはまだ7歳ですから、本来、自己犠牲という概念を知る必要がない年齢です。しかし悲しいことに、家長のような役割を押しつけられることがよくあります。

デビッドは小さなアパートに住んでいて、母親と5歳の妹ダニエラ、3歳の妹カーラの4人家族です。母親は子どもたちを愛していますが、大勢で盛り上がるのが好きで、部屋にはいつも大人たちが入り浸り、酔っ払って子どもにふさわしくない雰囲気を作り出していました。とても「自宅」とは呼べない環境です。幸いだったのは、上の2人は毎週メトロの教会学校に行かせてもらっていたことです。メトロのスタッフであるアレクサは毎週、デビッド兄妹がちゃんと教会学校の送迎バスに乗っているかどうかを確認していました。

そしてクリスマスの日。送迎バスがデビッド兄妹の家に着き、アレクサが部屋に呼びに行くと、家具がほとんどなくなっていることに気づきました。母親は一晩中飲んだ挙句まだ寝ており、起こそうとしても目を覚ましません。子どもたちは野放し状態で、ニューヨークの凍るような寒さの中で部屋の窓も開いたま

ま、カーラは下着姿で鼻水を垂らして走り回っていましたし、誰かに髪をばっさり切られていました。

アレクサは、「とにかく子どもたちを日曜学校に連れて行って、この混乱状態から引き離し、神の平安を心に与えなければ」と思いました。しかし、部屋には物がなく、日曜学校へ連れ出そうにも、カーラに着せる服が見つかりません。その時、デビッドが言いました。「今僕が着ている服をカーラに着せて」。アレクサは驚きました。しかしデビッドは「僕の代わりにカーラを行かせたいんだ」と、譲りません。教会学校に行くということがどれだけ大事なことが、デビッドにはわかっていたからです。デビッドは自分の服を脱ぎ、カーラにそのパーカーを着せてズボンを履かせました。靴はカーラが履けるようなものがなかったので、アレクサが抱っこしてバスに乗せました。

デビッドに見送られながら、アレクサには、教会学校に行けない彼の残念さが手に取るようにわかりました。しかし、デビッドは同時に幸せも感じていたのです。自分の小さな妹が、初めてOHHに参加することができたのですから。 [次ページへ](#)

ケニア学用品募集

11月25日〆切!

同封のチラシをご覧の上、お申し込みください

クリスマスプレゼント・OHH

締めきり間近です!

今月号の目次

P2…クリスマスプレゼント&OHH
募集/ビル師からのメッセージ

P3~6…ケニアツアーご感想

P6…ケニア学用品募集/祈りの輪

P7…キャンプお礼/今月のデポ
ジョン

P8…日本事務所からのお知らせ

最高のプレゼントは、 ギリギリのところで間に合いました！

1 ページからの続きー

2人の妹たちはアレクサに連れられて帰ってきました。そしてデビッドにも、ラッピングされたクリスマスプレゼントが手渡されたのです。デビッドは大興奮でした。3人が受け取った贈り物は、おそらく彼らにとって、その年に手にした唯一のクリスマスプレゼントでした。豪華な贈り物ではありませんが、彼らにとってそれは、神の愛の象徴でした。家でどんなに辛いことがあっても、誰かが自分を大事に思ってくれているという証明です。

翌週、アレクサが3人に会いに行ってみると、アパートはもぬけの殻でした。残念ですが、よくあることです。ずっと交流してきた子どもたちでも、何の前触れもなく一夜にしていなくなってしまうのです。

しかし、ひとつだけ慰めがあります。私たちがあらゆる機会を用いて、子どもたちの心にみことばを植えてきたという事実です。神様は、その子どもたちがどこにいるかをご存知です。そして私たちは、神様が引き続き子どもたちに働きかけてくださるよう祈っています。クリスマスプレゼントをもらった時の喜び、そしてメトロの教会学校で何よりも素晴らしい最高の贈り物について学んだ時の喜びを、子どもたちは忘れるはずがないのです。

デビッド兄妹のような子どもたちに、人生を左右するような投資をしてくださり、ありがとうございます！ このクリスマスにも、さらに多くの子どもたちに手を差し伸べてあげてください。



締め切りが近づいています！

クリスマスプレゼント & オペレーション・ホリデー・ホープ



クリスマスプレゼント

ご自分がサポートするアメリカ、またはフィリピンの子どもにクリスマスプレゼントを贈ります。

フィリピンへのプレゼント 11月10日(日)まで

アメリカへのプレゼント 11月27日(水)まで

アメリカ・フィリピン・ケニアへのOHH支援

クリスマスの週のメトロの教会学校に参加した
全ての子どもにプレゼントを渡します。

おひとり何口でもお申し込みいただけます。

1口1,500円です。 11月27日(水)まで



先月同封したチラシをご覧ください、お申込みください

ビル師からのメッセージ

「お気に入りの贈り物」



ちょっと振り返ってみてください。お気に入りのプレゼントと呼べるものはありますか？ それは、子どもの頃にもらったものかもしれませんし、大人になってから友だちや家族からもらったものかもしれません。あるいは、毎年楽しみにしている定番のものかもしれません。

物をもらえるのは嬉しいことですが、それがお気に入りとなるのは、「物」それ自体によるのではなく、そこに込められた愛、思いやり、贈り主とのつながりなどによるはずです。プレゼントには必ず、単なる「贈られた物」以上の意味があるのです。そう、必ず。

ニューヨークのスラム街、マニラのゴミ捨て場、ルーマニアの忘れられた地域にある村、アフリカ中部の町、どこに住む子どもたちにとっても同じことです。あなたのお陰で、私たちは子どもたちとつながりを持ち、困難な状況の中で精神的な慰めとなり、神の愛、そして心の底から子どもたちを思いやる人々の愛

を子どもたちに伝えることができます。

それこそが、私が毎年受け取るお気に入りの贈り物です。

あなたという友と私とのつながりがなかったら、このような贈り物を受け取ることはできません。いつも言っていることですが、ここでも言わせてください。パートナーシップには力があります。メトロの、そして私の友でいてくださるあなたに感謝します。このクリスマスの時期に、人類すべてに与えられた最高の贈り物という愛を子どもたちに教えることで、彼らの人生にどれほど大きな変化をもたらすことができるかを理解してくださっている友に感謝します。

メトロ・ワールド・チャイルドも来年は40周年を迎えることを思うと、感謝の念はさらに深まります。メトロを、私を、そして何より子どもたちを、支援してくださって本当にありがとうございます。

メリークリスマス！

心を込めて
ビル ウィルソン

ケニア視察ツアーのご感想①

初めての開催となりましたメトロ・ケニアの現地視察ツアーにご参加くださった方々のご感想を、シリーズでお届けします。

近藤千絵様

現地スタッフのピッタ兄の活躍

ケニアのメトロには、住み込みの本部スタッフが2名おり、ボランティアを合わせた25名の現地スタッフが、数万人(!)の子供を相手に日々教会学校の働きをすすめています。このレポートでは、私達の滞在中に多くの奉仕をしてくださった一人の現地スタッフ、ピッタ兄の事を紹介したいと思います。

それは、食後にコーヒーを飲みながら隣に座っていたピッタ兄に何気ない質問を投げかけたのが始まりでした。「ピッタ君、ご家族は？」彼は静かに話し始めました。「僕には本当の両親も家族もないんだ。小さい時からストリートチルドレンだったからね」



マイキー兄(左)とピッタ兄(右)
2人ともストリートチルドレンだった

ピッタ兄、現在32歳。くりくりの目をした、まだ20代にしか見えない彼の今は、希望と才能に満ちていて、いつも笑顔で楽しそうな印象の青年。とてもそんな暗い過去を持った青年には見えませんでした。しかし彼のこれまでの人生は壮絶なものでした。ただし、それはケニアでは決して珍しい人生ではなく、多くの子供達が今も直面している現実なのです。

1998年、11歳のピッタ少年はナイロビにいる多くのストリートチルドレンの一人でした。ギャングの仲間と万引きをしたり、悪事を重ねたりしていました。ケニア政府はそのようなストリートチルドレンを一掃しようと、なんと次々と銃で殺害しはじめたのです。どんどん仲間が殺されていき、まだ少年のピッタはなんとか逃れようと、トラックの後ろにしがみついたのでした。着いたところはナイロビの北160キロの町、ナクル。朝晩の冷え込みはつらいものがありました。お腹もペコペコの日々。そんな中のなぐさめは、接着剤入りの袋を吸引して寒さや空腹を紛らすことでした。喧嘩や暴行でできた身体中の傷の痛みも、この方法でしか対処する事のできない悲しい現実が、今もストリートチルドレンの中にあるのです。

ある日、13歳のピッタ少年はナクルで開かれていた伝道集会のメッセージに耳を傾けていました。「神様があなたの本当のお父さんです！神様があなたを養ってくれます！あなたを愛しています！」彼はそれを聞いて、神様に触れられて涙が溢れてきたのでした。「僕にもお父さんがいるんだ!!」そして、集会の最後にメッセンジャーが「誰かこの少年の面倒を見てくれる人が会衆にいませんか？」と、ピッタ少年を紹介したのです。すると、ある教会の牧師が里親になることを申し出て、ピッタ少年はキリストに出会ったのみならず、里親

にも出会う事となったのです！ピッタ少年はそれまで学校に通った事は一度もなかったのですが、小さな子供達に混ざって学校に通うことになったのです。そして、どんどんと成長していくのでした。

学校を卒業して、同じ境遇で育ったマイキー兄(現メトロスタッフ)とスラムの子供達に福音を伝え始めました。その後2人はメトロワールドで働く道が備えられ、ギャングだった彼らはすっかり生まれ変わり、今は子供達の支援に燃えています。ピッタ兄の導くメトロのプログラムは本当に力強く、子供達への愛が溢れ、1000人の子供も彼の全身全霊のメッセージに釘づけになります。



全力でメッセージするピッタ兄

神様はピッタ兄に音楽の賜物を豊かに与えてくださっています。美しい声のアフリカのビートの賛美はYouTubeで絶賛公開中。彼のビジョンは「音楽を通して多くの人を救いたい」というものです。毎日メトロの仕事の後にボイストレーニングに通っています。仲間とミュージックビデオも作りました。作詞作曲をします。アーティストに楽曲も提供しています。

親に捨てられたストリートチルドレンだった少年は今、神様の子供として輝いていて、そして多くの人を輝きに導いています。彼がこれからもますます用いられ、今日も1人でも多くの子供達に救いと励ましのメッセージが届けられますようにと祈ってやみません。メトロキッズには、将来と希望があります！頑張れピッタ兄！！

こぼれ話・なし

その1

沢山の子供達の前で「コンドーで一す!」と自己紹介すると、みんなケラケラ笑い出します。なぜかって?「コンドー」は現地の言葉スワヒリ語で「ひつじ」を意味するのです。そして、道端にはあちこちにもこっちにも「コンドー」がいて、道路をふさいでいることも。全国の近藤さん、ケニアでのつかみはバッチリですよ。



←小学校のランチタイムは、みんなで分け合いながらの女子会



子供達のお手本であり、憧れでもある先生達。オシャレも大切ですよ！

その2

ナクル(50万人程の地方都市)のお財布事情

※全て個人のヒアリングによるもので正確さには欠けます。

ケニアシリングは、換算がほぼ円と同じでわかりやすい(100 シリング=100円)

【月収】

スラム 4,000円(野菜や物を路上販売、洗濯代行業など)

中流 15,000円(バイクのタクシーなど)

ちょっとお金持ち 30,000円(小学校の先生がこのあたり)

役人 50,000円~(仕事を得るには賄賂を使う必要あり)

【家賃】

スラム 1,000円(電気ガスなし、共同水道)

最近のアパート 10,000円~

【教育費】

公立校は無料だが、制服や給食費がかかる。大学も奨学金制度があり、優秀ならば大学もいける。

【食事】 ビクトリア湖産ティラピア料理(美味！)

ホテルでは1食500円~(現地の人は外食をする余裕はない)

ケンタッキーの値段は日本と変わらない500円

~1,000円。マクドナルドはなかった(質問したドライバーはマクドナルドを知らなかった)。スタバは首都のナイロビにはあるかもと言われたが、ネットで調べても見当たらなかった。公立小学校の給食代は1食25円。(スラムではこれすら払えない家庭が多くある。)



【車】

車の多くは30万の中古車(1番人気!)。小型60万円、中型100万円、外口で大活躍のバンは、なんと300万円!中古車なのに輸送費や税金でかなりの高額になる。ちなみに、ガソリンは113円/リットル。

※観光地のお土産店の商人は、ものすごい勢いでぼったくってくる!思い切って値切らないと外国人はイカモです。10分の1から値切ってちょうどいい!

あとがき

失業率60%(日本3%)のケニア。道端には、何もしていない男性がうろろうろしている。いろんな背景があるのだろうし、偉そうな事は私には言えない。ただ、多くの小学校を訪れて先生方にお話を聞くと、貧困家庭の多くはシングルマザーの家庭とのこと。父親が家庭や子供の責任を放棄して蒸発するのだそう。小さな子供達を抱えて、苦勞している母親達...



ゴミ捨て場山に住むお母さん達

私は、今回のケニア訪問の中で子供達への教会学校の素晴らしいメトロの働きに感動した。メトロの主にあるしつけと訓練と教育は、本当に素晴らしい!希望と将来が見えてきた。あの子達が成長する頃には、ケニアも大きく変わっていると信じる。そして何より、あの子供達の成長がどれほど母親達の喜びになっている事だろうか!母親にとって、子どもの幸せが一番である事は万国共通。私は、もっともっとあのお母さん達を励ましたい!またあのゴミ捨て場山*に住むお母さん達に、本当に会いに行きたい。



お土産のキャンディーとトウモロコシ粉を持つゴミ捨て場山の子供

※ゴミで山ようになった公共の廃棄場に、たくさんの貧しい人々が住んでいます

学用品を送ってくれてありがとう! ~素晴らしいタイミングで~

あるスポンサーの方が、ケニアの少年に学用品一式をプレゼントしてくれました。メトロのスタッフは、彼にそのプレゼントを学校で渡そうとしたのですが、新年度が始まってから2週間たっても彼に会うことができませんでしたので、学校に来ていない理由を調べ始めました。

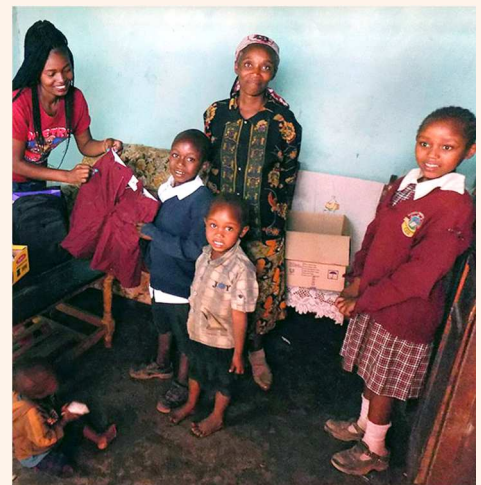
彼は、母親と兄弟たちと暮らしているのですが、唯一の働き手であるお母さんが関節炎を患って働くことができず、収入がない状態になっていることがわかりました。そのため、母親は、彼の新年度に準備しなくてはならない制服や学用品を揃えるお金がなく、制服のない彼は学校に行けずに家にいたのです。



このような状況の時にスポンサーが彼に新年度に必要なすべてのセットをプレゼントしてくれたことは、まさに素晴らしい出来事でした。

こうして、新年度用の贈り物を受け取った彼は、学校に行けるようになり、母親も心配事がひとつ減りました。

まさにベストなタイミングで学用品が与えられ、母親は、息子の人生に価値ある変化をもたらしてくれたスポンサーに心から感謝しています。



ケニア視察ツアーのご感想②

堀井勇士様

今回ケニアツアーのことを聞き、去年 11 月に参加させていただいたニューヨーク視察ツアーで非常に良い経験ができたので、是非参加したいと思いました。またアフリカはいつか行ってみたいと願っていたので、一般のツアーで行くのではなく、多くの学びがあるメトロのツアーで行ければ最高だと思い、申し込みました。

実際ケニアツアーでは期待以上の素晴らしい経験ができました。観光では絶対足を運ぶことができないようなスラムの地域、たくさんの学校に行くことができました。これもメトロケニアのスタッフが、地元の人たちや学校の方々と良好な関係を築いているからだと感じました。



学校を訪れていて面白かったのは、どの学校に行っても子供たちが僕の顔を見て「ジャッキー・チェン」とか「ブルース・リー」と言ってきたことです。香港映画がアフリカではとても人気で、子供から大人までみんな香港俳優を知っています。それは中国企業がケニアにも進出していて、中国や香港の文化が非常に浸透しているからです。中国のアフリカ進出は様々な問題点があるとされていますが、インフラ整備、学校の復旧作業などで大いに貢献している部分があり、現地の人たちも中国人に感謝していると感じました。だからどこへ行っても「チャイニーズ？」と聞かれました。

日本車の割合は高かったけれど、日本企業はあまりケニアに進出していないため、日本に対する知識はあまりありませんでした。日本のアニメを知っているかと聞いても誰も知りませんでした。

途中から僕は子供たちに「ジャッキー・チェン」と言われたら、「ジャッキー・チェンは僕のお父さんだよ」と言ってみました。すると子供たちは「嘘でしょ、嘘だ！」と言って大盛り上がりになりました。簡単なカンフーの動きするだけで子供たちは大喜びでした。今度行く時は少しカンフーを練習してから行こうと思いました(笑)

学校の子たちと一緒に遊ぶ時にサッカーをしたのですが、サッカーボールはほとんど、まるめた布を紐でグルグル巻いた手作りのボールでした。それでもとても楽しく遊んでいる

のですが、サッカーボールなどのスポーツ用品が充実すれば、もっとプレーしやすくなるだろうと思いました。

少し驚いたのが、学校で大人っぽい子に声をかけて何歳かと尋ねたら、21歳と答えました。僕が22歳なのでほぼ同じ年齢です。制服や教科書にかかるお金が払えなかったり、働いていて学校に行けなかったり、親がいないストリートチルドレンだったり、様々な理由で学校に行けない子供たちがいます。その中で学校に行ける環境が整った子供たちは、その年齢から学校に通い始めるようなので、年齢層が高めの子たちも学校に通っています。だから学校には様々な年齢層の子たちがいました。

また、学校で僕の携帯が子供たちに取られてしまうという出来事がありました。子供たちと記念写真を撮って後ろポケットに携帯を入れて、数秒後にポケットに手を入れると携帯が入っていません。落としたのかと思ったのですが、どこを探しても落ちていなくて、他の方の携帯から電話をかけても通じません。学校の先生にそのことを話すと「絶対に見つけるから安心して」と言い、全校生徒を集めたところ、目撃者がいて携帯が見つかり無事返ってきました。絶対返ってこないと思っていたので本当に安心しました。携帯を取った子供たちはまず電源を落とし、SIMカードを携帯から抜き出そうとしていたみたいです。前にも携帯を取ったことがあるのかもしれません。でも先生が「この学校に来ている子供たちは本当に貧しくて、携帯電話が取れるところがあると誘惑になってしまうの」とおっしゃっていて、自分が本当に軽率だったと気付かされました。給食がその日の唯一の食事になる子供たちもいるという貧しい地域で、携帯を取りやすい場所にしまうというのはとても配慮がないことでした。そして犯人探しのようなことまでしてしまって、子供たちには本当に申し訳ないことをしたと反省しました。

ある学校でメトロのプログラムを行っていた時、学校の塀の上に4、5人子供たちがいるのが見えたので近づいてみると、笑顔で手を振って話しかけてくれました。6歳から10歳くらいの子たちです。ただこの子供たちは学校に行っていないため英語がほとんど話せません。一人だけ英語が少し喋れる子がいたのですが、その子は僕に制服を買って欲しいと言ってきました。学校に行きたいけど行けないそうです。僕が制服は買えないと言うと何か欲しいと言うので鞆の中にあつた使いかけの鉛筆を4本渡しました。すると子供たちは大喜びしていました。この子た



ちは靴も履いていなかったし、勉強したくても勉強する道具も持っていませんでした。もっとちゃんとした文房具を渡してあげることができればよかったのに、と思いました。でもこの子たちも塀の上からメトロのプログラムを聞いているので、歌を一緒に歌ったり、一緒に祈ったりしていました。間接的ですがこの子たちにも聖書のメッセージが伝わっているのは素晴らしいことです。

このツアーで貧しい地域の学校や、スラム、ゴミ山などに行きましたが、ケニアの人たちからあまり悲壮感を感じませんでした。その一つの要因として、やはりキリスト教国だということがあると思います。今回行った学校の教員たちは皆熱心なクリスチャンで、学校にも聖書の言葉が壁などに書いてあります。どんなに貧しく大変な環境でも、祈り頼る存在がいるというのは非常に大きなことです。

メトロのチームが学校に行き、聖書の言葉を楽しくわかりやすく子供たちに教えることは、物質的な必要を満たす以上の価値があるように感じました。ケニアのメトロスタッフたちが神に祈り、賛美し、知恵を絞って献身的に子供たちのミニストーリーをしている姿に感銘を受けました。



ゴミ捨て場に住むお母さん達に
トウモロコシ粉をプレゼント

日本からご一緒させていただいた、万代先生御夫妻、三木さん、近藤さん、高嶋さんとの交わりも有意義で楽しく、多くのことを学ぶことができました。

ケニアでの滞在は子ども好きの僕には幸せなひと時でした。毎日たくさんのフレンドリーで可愛い子どもたちと話したり遊んだりして、元氣と励ましをたくさん受けました。このような機会を与えてくださった神様、スタッフの方をはじめ祈ってくださった皆さまに感謝します！

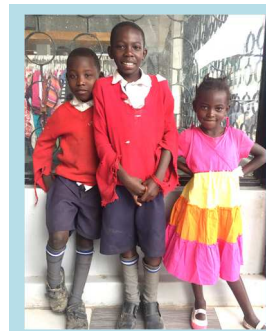
次号でも、参加してくださった方のご感想をお届けします。
お楽しみに！



ケニア学用品支援の募集

ケニアでは、1月から新年度がスタートします。新年度の始まりは、子どもたちにとって最も楽しくエキサイティングな時のはずですが、それは新年度を迎える準備ができていない場合のことです。メトロの活動する極貧地域では、子どものために新年度の準備を整えることは、親たちにとって大変な負担です。

このメトロのキャンペーンを通して、学用品のプレゼントを受け取った子どもたちが喜んで勉強し、毎日学校に通って、自分らしい人生を切り開くために必要な基礎学力を身につけるチャンスを得ることを願っています。



着古したボロボロの制服



新しい制服と靴で学校に行けることは、子どもたちにとってとても嬉しいことです

新しく受け取った制服

キャンペーン受付の締め切りは、**11月25日(月)**です。

お申し込みしていただける項目

- ①「ケニア学用品支援」…ケニアの子どものスポンサーの方
- ②「ケニア学習支援献金」…どなたでもご支援いただけます

詳しくは、今月同封のチラシをご覧ください。



祈りの輪

メトロのパートナーであるあなたは、祈りと支援を通じて活動の任務を担ってくださる貴重な存在です。どうか共に祈ってください…

- 子どもたちが、ひとり子イエス・キリストというすべてに勝るクリスマスプレゼントを受け取れるよう、神様が子どもたちの心を開いてくださいますように
- OHHの必要がすべて満たされ、かつてない人数の子どもたちにクリスマスプレゼントを渡すことができますように
- OHHでクリスマスプレゼントを受け取ったすべての子どもが、自分たちが神の子どもとして愛され、価値ある存在であることを理解できますように
- 私たちが手を差し伸べている子どもたちの家族が、子どもや教会学校を通じて福音にある光を見られるよう神が働いてくださいますように
- このもっとも聖なる祝日、地球上に平和がありますように

アーメン！感謝します！

キャンプへのご支援を ありがとうございます



あなたのように思いやり溢れる友のお陰で、今年は、ニューヨーク、フィリピン、ケニアで1,200人近い子どもたちがキャンプに行くことができました!

ニューヨークでは三泊四日でキャンプ場に行き、一生に一度あるかないかという時間を楽しみました。聖書の学び、礼拝、食事、アクシオン満載の野外活動、音楽、ゲーム、その他たくさんのイベントに胸躍らせ、温かな環境で過ごすことができた夏でした。

フィリピンのキャンプは5年目になります。今年は400人以上の子どもたちが参加し、大成功を収めました。そしてまもなくケニアでもキャンプが始まります。300人以上の子どもたちが参加予定です! ケニアでのメロウの活動が大きな成長を続けていることは実に感謝です。子どもがキャンプに参加するほど、人生を変え魂を救うチャンスが増えるということだからです。

キリストにあつて、未来を担う世代を育てようというスポンサーの方々の思いやりがなければ、このような活動は何一つ実現できません。ご協力に感謝します!



2019年11月 今月のデポーション by ビル・ウィルソン

「今日、その祈りが魂を作り変える」

各地から講演に招かれますが、アメリカ国内ではどこへ行っても、飛行機を降りて最初にするのは決まっています。レンタカーを借りるのです。もう長いこと、そして今でも、私は講演会場まで自ら運転して行くことにしています。

車の中で、穏やかな気持ちで目に入るものを眺める時間は貴重です。特別なことではないように見えますが、その中でどんな学びを得られるかわかりません。まして、クリスマスを前に大忙しのこの時期は、少し立ち止まって心を集中し、大事なこと一主の臨在に焦点を合わせる必要があると思うのです。そんな時間の中で、何年も前のある光景がよみがえってきました…

二つの島にかかった橋を車で通りかかった時、使い古した網をひたすら水面に投げている老人が見えました。私に気づきもしませんでした。サウスカロライナ州ではこのような光景をよく見かけます。人々は、島と島の間の沼地でエビを獲っているのです。

網はそれ自体の重みでゆっくり沈んでいきます。まるで水中のパラシュートのようです。私は車の中から、その老人が網を引いてはまた投げるのを眺めていました。夕食に十分な量のエビが獲れるようにと願いながら。しかし、時にはエビが獲れないまま、瓶やホイールキャップ、靴や魚の死骸といったがらくたしか引っかからないこともあります。

網を打つ時、人は多くの収穫を期待します。しかし意に反して、少ししか獲れなかったり、さらには想像もしなかったものが網に入っていたりすることがあるのです。

老人が網を打つのを眺めながら、私は「人が祈る姿勢に似ている」と思いました。私たちは祈りをこの網のように扱うことが多いからです。私たちは何かを得ようとして網を投げます。この2019年という年を、そんな感覚でスタートさせた方もおられるのではないのでしょうか。もしあなたが、ご自分の祈りをすべて主に向けて投げるならば、あなたの2019年はまさにこの老人のようなものになるでしょう。途中で思わぬがらくたを拾ってしまったかもしれません。失望や失敗や…他にもあるかもしれません。

今日、あなたに知っておいていただきたいのは、「祈りは決して無駄にならない」ということです。あなたにはその実感がないかもしれませんが、祈れば必ず何かが起こります。祈りは確実にあなたを変えるのです。祈るということは、あなたの霊性を引き上げる何かと接点を持つということです。祈りは、瞬時に、なおかつ永続的に、あなたを変えるのです…あなたのコントロールを超えたところで。

大事な何かを確実に手に入れることのできる漁は、祈り以外にありません。祈りは私たちとイエスとをより近く、より深く結びつけ、私たちの人生の質的变化を保証するものです。まだわからないかもしれませんが、信じればよいのです。さあ、今です。網を打ってみましょう!

「あなたがたが信じて祈り求めるものなら、何でも与えられます。」—マタイの福音書第21章22節—

心をこめて

創立者・主任牧師 ビル・ウィルソン

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

！ 手紙の同封物のお願い

子どもたちへ、誕生カードやクリスマスカードなどをお送りいただき感謝申し上げます。手紙に同封いただく物についてお願いがあります。

シールやしおりなどを同封していただいても構いませんが、明らかに品物が入っていることがわかるものはご遠慮ください。途中で開けられて没収されたり、盗まれたりする危険があります。

必ず、23.5cm×12cm×1cm 以内の封筒に収まるようにご準備ください。また、全体の重さは50g 以内でお願いします。

封筒のサイズやプレゼントの重さによっては、返品させていただく場合がございますことをご了承ください。

！ 子どもと皆様を守るために

皆様からお送りいただきました手紙とプレゼントは、現地スタッフがすべて中身を確認し、子どもにとって危険な物や不適切な物、皆様のことが特定できる情報などがある場合は、削除や破棄させていただきますのでご了承ください。

極貧地域に住んでいる人々は、私たちの想像以上に生きる知恵があり、必要以上の情報は悪用されたり、ネットで探し出されたりします。皆様の安全のために、友だち申請などメトロを通さない連絡には直接返事をしないでください。

メトロでは、長年にわたる様々な経験により、子どもとスポンサーの方々をどのように守るべきかというノウハウを元に、双方にとって最善の対応を心がけています。

！ スポンサー代金改定

メトロ本部では、世界中の物価の上昇に対応するために、子どものスポンサー代金を今年からひと月 5,000 円に変更しています。

たくさんの皆様が、スポンサー代金の引き上げのご連絡をくださいましたことを心から感謝申し上げます。

もし、まだご検討いただけていない場合は、ぜひご検討の上、お知らせください。

ご連絡をいただかずに、自動的に引き上げをすることはございませんので、大変お手数ですが、日本事務所までご意向をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

日本事務所よりごあいさつ！

今月号に早速ご投稿いただきましたように、9月下旬にメトロ・ケニアに行ってまいりました。乗り換えを入れて片道28時間は確かに長い旅でした。しかし、行く価値は十分にありました。

現地で実際に働きをしているスタッフの信仰と情熱、子どもたちへの愛を目の当たりにし、確かに子どもたちが楽しみにするはずだと実感しました。

そして、いつでもどこでも主の証人として明るく愛を持って人々に接し、特に子どもたちにはあらゆる方法を通して主の愛と救いを伝える真摯な姿勢に、感動させられました。私たちの支援は、ケニアでも間違いなく生きて実を实らせていることを誇りを持ってご報告いたします。

ご支援とお祈りに心から感謝し、皆様の上にも主からの豊かな祝福をお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座 4-5-1
教文館 6 階 TFC 内
電話 03-3561-0174
FAX 089-925-1501
メール metrojapan@mission.or.jp
URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン